

# 創発の会

## 経済同友会活動の1stステップとして、 幹部を交えたフリー・ディスカッションを開催

「創発の会」は入会2年以内の会員を対象に、委員会活動への本格的参画のためのファースト・ステップとなる場を提供している。毎月1回開かれる会合では、幹部会員からの問題提起などに基づくフリー・ディスカッションを実施する。忌憚のない意見交換を通じて、相互に啓発し合いながら、経済同友会活動の全体的な活性化を目指している。

### 「創発の会」名称の由来

「創発」とは元来、自然科学の分野で複雑な自然現象を説明するために用いられた言葉で、「部分の挙動が全体の高度な秩序を生み出す」プロセスを指している。メンバー一人一人の創造力を昂揚し、社会の発展に資する概念を創出・発信していくことを願って、この名称が付けられた。

### 会合の開催

原則、毎月1回18時00分～20時30分に開催(8月は休会)

会合の進行は、18:00～18:15 夕食(ドリンク付)  
18:20～19:00 ゲスト・スピーカーによる問題提起  
19:00～20:00 フリー・ディスカッション  
20:00～20:30 懇親会

## 創発の会 座長インタビュー

### 経済同友会での活動の第一歩として 「創発の会」を活用してほしい

藤森 義明 (日本GE 取締役社長兼CEO)

【副座長】メンバー総数:156名

竹井 英久  
(三井不動産販売 取締役副社長)

竹中 哲也  
(日本航空 取締役副社長)

秋池 玲子  
(ポストンコンサルティンググループ  
パートナー&マネージング・ディレクター)

魚谷 雅彦  
(日本コカ・コーラ 取締役会長)

鰐淵 美恵子  
(銀座テラーグループ 取締役社長)

(役職は8月21日現在)



### 幅広いテーマを 自由に語り合う「創発の会」

経済同友会は、会社や業界を代表する経営者の集まりではなく、経営者が個人としてその活動に参加しています。会社や業界の利益を追求するロビイングを目的とした団体とは異なり、純粋に日本や社会全体を良くしたいと考える経営者個人の集まりです。志と活気に溢れ、しかも上下関係はなく、オープンでフランクであることが経済同友会の大きな特長と言えます。

その活動の主な場として、さまざまな委員会での提言活動がありますが、テーマによっては専門性を要

することもあり、入会された当初は少しハードルが高いと感じるかもしれません。「創発の会」はそんな新入会員の方にとって、経済同友会の中で活躍できる場を見出すための一番の近道だと思います。

会合では毎回、広範で身近なテーマを取り上げて検討し、参加した人たちが自由に意見を交換しています。例えば、皆さんも興味のある「新・日本流経営」をテーマにした会合もその一つです。経済同友会としての考え方や、その提言について語り合い、自らを啓発できるような場にしてもらえればと期待しています。

経済同友会で活動を行う大きな

1951年東京都生まれ。75年東京大学石油工学科卒業後、75年日商岩井入社。81年カーネギーメロン大学MBA取得。86年日本ゼネラル・エレクトリックに入社。GEメディカルシステムズ核医学ビジネスマネージャなどを経て、97年ゼネラル・エレクトリック・カンパニー副社長兼GEメディカルシステムアジア社長兼CEOに就任。2001年から03年までは、マサチューセッツ州ピッツフィールドに本拠を置くGEプラスチックの社長兼CEO、同時にゼネラル・エレクトリック・カンパニー 上席副社長にも就任。2005年日本ゼネラル・エレクトリック代表取締役会長兼GEマネー アジア プレジデント兼CEO、2008年日本ゼネラル・エレクトリック代表取締役社長 (CEO)を兼務、2009年より日本GE代表取締役社長 (CEO)。

2003年5月経済同友会入会、2006年度より幹事。2005年度経営改革委員会副委員長、2005～06年度日本のイノベーション戦略委員会副委員長、2007～08年度企業経営委員会副委員長、2008～09年度会員委員会副委員長、2009年度創発の会座長。

意義には、「自己を高める」「社会に貢献する」という二つの要素がありますが、まず、多くの優れた経営者との交流を深め、自分自身を磨くという意味で、「創発の会」は最適な場だと思います。

## 自らの活動の第一歩を 踏み出すことが大切

経済同友会に入会した皆さんは、何らかの形でその活動に貢献したいという意志を持っておられるはず。経済同友会はあくまで個人としての活動ですから、入会したことイコール、何らかの活動に自主的に参加するということが、その第一歩になると思います。

私自身も入会当初には、この第一歩を踏み出すまでに時間が必要

でした。経済同友会の活動に自分の時間をどこまでコミットし、どんな活動をすればよいのか、試行錯誤した時期があったのです。

しかし、実際に踏み出してみると、経済同友会での活動は委員会も含めて、それほど堅苦しいものではなく、かえって居心地がよいものだ気付くでしょう。ぜひ、「創発の会」でこの第一歩を踏み出してほしいと思います。

現在、「創発の会」には月平均で30～40名くらいの方々が参加して

います。私は座長として、この会を活発でエネルギーに満ちた場に、その空気を会場に入ってきた一瞬で感じ取れるようにしたいと考えています。

「創発の会」は、参加することに意義があるのです。会社で守られた自分を捨て、改めて自己を見出す機会になるでしょう。「参加すればきっと面白い」「とにかくわれわれと一緒に議論しましょう」というのが、私からの大きなメッセージです。

## 「創発の会」第1回目の会合 (7月10日開催)

### 自由闊達な議論の場が 革新的な提言につながる

ゲスト・スピーカー 桜井 正光 代表幹事

入会当初は、経済同友会活動に対する知識はあまりありませんでしたが、実際に活動してみると、委員会活動や同友会人脈は経営においても役に立つと感じました。私は、主に企業経営者自身がどうあるべきかを議論したいと思い、「企業競争力の基盤強化を目指したコーポレート・ガバナンス改革」「企業の国際競争力の強化」などについて提言をまとめ、その過程で「日本流経営」のあるべき姿を深く考えることになりました。

経済同友会は個人の資格で参加



懇親会

する団体です。企業や業界の代表としてではなく、経営者個人の見識に基づいて発言をし、議論をします。そのためでしょうか。政治であり、行政であり、経済の活性化であっても、常に向かっているのは、この国のあるべき姿という本質の議論になります。このような結果が、革新的な提言の発表につながってきたのではないかと感じています。それぞれの企業経営者が個人の立場で、その経験や見識に基づき、自由に意見が言えるということは、とても大事なことではないでしょうか。

そして今、われわれがなすべきことは、中長期を見据えた「この国のかたち」の明確化と、その実現に勇気を持って取り組むことだと考えます。本年度の経済同友会では、“現下の未曾有の経済危機を「新しい国づくり」への好機ととらえて、国の「かたち」(ビジョン)と、そのための「国家戦略」を策定し、社



会に提示する”ことを基本方針として活動します。皆様の積極的なご参加をお待ちしています。

### 「創発かわら版」を発行



「創発の会」では会合の様様をまとめた「創発かわら版」を発行し、積極的な参加を呼びかけています。